

# MEJIRO UNIVERSITY ECO CAMPUS REPORT

エコキャンパスレポート 2018





学生たちに目白大学のいいところを聞いてみると、緑の多さにふれた記述が多い。緑が多いだけがエコキャンパスではないが、重要な要素であり、学生たちがそれを感じていることは大変喜ばしいと思う。しかし、緑が多いといっても、元からある木々を何もしないで放っておいて、こうなっているわけではない。多くの人たちが日々手入れをしているのである。ありのままの自然を大切にするためには、多くの人手が必要であることを忘れてはならない。エコの実現には、自然と人間の双方にとって折り合いがつかるところを定めていくことが必要となる。このことは、自然と人間の「共生」を意味しているともいえるが、共生は「多様性の尊重」が基本である。そうすると、エコキャンパスづくりとは、このキャンパスを人と自然環境が共存できる場にしていくと同時に、最終的には多様な人々が尊重されながら生活する場にしていくことでもあるといえるのではないだろうか。

目白大学学長 沢崎 達夫



ECO CONTEST

エココンテスト

Ecoコンテストは、メディア表現学科河合ゼミのイニシアティブで、目白大学・大学院・短期大学部・高等学校・中学校まで目白学園の学生・生徒一人ひとりのエコ意識向上をめざす、全学参加型のアイデアコンテスト。2018年度は、3種類の4コマ漫画(3コマ目まで)の中から好きなもの1つを選んで、それにオリジナルな4コマ目を考えて描くことで、エココロとエコ意識を競い合う、名付けて『エコミック』コンテストでした。漫画の種類は「僕たちエコレンジャー」「ポイ捨て彼氏」「変わるもの、変わらないもの」と3通り。200点を超える応募作品の中から、3名が「エコミック大賞」に、15名が「アイデア賞」に選ばれ、入賞作品は10月20日・21日、桐和祭(学園祭)のエコキャンパス会場にて展示・表彰されました。



ポスター



学園祭展示

ECO PRO

エコプロ展

2018年12月6日～8日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2018～SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」に目白大学が出展しました。「エコプロ」は今年で20回目を迎えた日本最大級の環境展示会。3日間で16万2千人以上の来場者を記録しました。6回目の出展となる本学は、「全学的エコキャンパスづくりへの提案」をスローガンに、児童教育学科の2団体、子ども学科、地域社会学科、メディア表現学科、および学校法人目白学園「地球環境の保全および低炭素社会への貢献」推進委員会が出展しました。このうち児童教育学科、地域社会学科、およびメディア表現学科から併せて30名の学生が参加しました。学生たちはゼミや授業におけるエコ活動や環境学習について、パネル展示やチラシ、アンケートなどを通じて紹介したほか、児童教育学科・石田ゼミのパソコンによる海ごみ紙芝居の企画は特に子どもたちに好評でした。



エコプロ展

LECTURE

講演会

2018年7月14日、目白大学大学院国際交流研究科「第4回公開講演会」が開催され、本学学生と一般の方を併せて140名を超える参加者がありました。ESD活動支援センター副センター長で国連大学サステナビリティ高等研究所上級客員研究員の鈴木克徳氏を講師としてお招きし、「SDGs(持続可能な開発目標)をめぐる内外の動向～今、私たちはSDGsとどう向き合うべきか～」というテーマでご講演いただきました。SDGsは国際社会が2030年までに達成すべき具体的な行動目標を示すとともに、その達成のためにはさまざまなステークホルダーが連携・協力して取り組むことが不可欠とされます。本講演ではSDGsの背景やビジョンについて、また私たちが国内的に解決すべき課題や国際的に貢献を期待されている活動について、専門的な立場と包括的な視点から豊富なデータに基づいて解説していただいたことで、参加者はSDGsへの関心を深めることができました。



公開講演会

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- ソーラーシステム
- 集中制御空調システム
- 高効率空調システム
- ヒートポンプ式給湯器
- 人感センサー

- 省エネ照明(LED、インバーター式蛍光灯)
- 水蓄熱システム
- 風力発電
- 目白学園電気予報

緑化対策

- 700種類以上の樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング

省資源対策

- 中水道システム
- 空き缶回収装置
- 再生紙の利用
- 傘のシェアリングサービス

その他の対策

- ごみの分別
- UVカット窓ガラス
- グラウンドの砂埃防止
- 喫煙所以外の全面禁煙



太陽光発電



高効率空調機



水蓄熱システム



屋上緑化



中水道システム

ECOアクションは、学生自らが企画し実施する環境プロジェクト。「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか？地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」との呼びかけに対して、8回目となる2018年度は6件の意欲的な応募があり、その環境マインドとアクション性が評価され採択されました。桐和祭(学園祭)では、実施された企画の成果報告(中間報告)のパネル展示が行われました。



海ごみ拾い



カラフルクレヨン



カワラノギク



SDGsエコライフ

## 2018年度 採択・実施企画一覧

1. カラフルクレヨンでかわいく!!  
(子ども学科 西山ゼミ)
2. 高尾山をキレイにしよう!!  
(児童教育学科 新聞委員)
3. ゴミ箱を工夫して、ゴミの分別を改善しよう  
(児童教育学科 山本ゼミ)
4. Sea Garbage Educator  
(児童教育学科 石田ゼミ)
5. 絶滅危惧種カワラノギクの  
保全活動と情報の発信  
(社会情報学科 藤巻ゼミ)
6. 広めよう!SDGsでエコライフ  
(地域社会学科 飛田ゼミ)

2018年10月27日、新宿区内にある高齢者福祉施設「神楽坂」の1階地域交流スペースで、目白大学の学生たちが「目白大学 第2回出張!文化祭」を開催しました。学園祭に来てもらうだけでなく、学園祭が出向いていくという発想で、神楽坂の施設を拠点に地域の方々や交流し、まちの活性化にも一役買いたいという欲張ったイベントです。そこで注目されたのが、新企画「エコアクションフォーラム2018」。2018年度エコアクションプロジェクトに採択された6団体のうち5団体(児童教育学科の石田ゼミ、同学科の山本ゼミ、子ども学科の西山ゼミ、社会情報学科の藤巻ゼミ、地域社会学科の飛田ゼミ)が集結し、そのプロジェクトの活動内容や研究成果についてプレゼンテーションを行いました。続いて各団体の代表者がステージに登壇してのパネルトーク。司会者からの質問や、フロアからの難しい質問に対してもきびきびとしっかりと応答していたのが印象的でした。子ども学科の学生たちによる美しい装飾もアートのように会場を盛り上げてくれました。



パネルトーク

## 地球温暖化防止コミュニケーター養成

人間学部児童教育学科の学生54名が、環境省の2018年度地球温暖化防止コミュニケーター養成講座を受講修了し、地球温暖化防止コミュニケーターに登録されました。そのうち6名の学生たちは、この講座で学んだことを生かして、子どもたちに地球温暖化の現状について知ってもらい、その対策について考えてほしいとの思いから、児童教育学科の石田好広教授の指導のもと、大田区の小学校でゲストティーチャーとして、地球温暖化防止に関する出前授業を行いました。講習会で学んだ地球温暖化の知識や伝え方の工夫を意識しながら、動画を活用したり、クイズを行ったり、サイコロを用いたアクティビティを実施したりと多様な活動を盛り込みながら、子どもたちに分かりやすく伝えられるように授業を工夫しました。地球温暖化の内容は大変難しく、学校現場の教員も深く理解しているわけではないと言われます。そんな中、地球温暖化防止コミュニケーター養成講座で学んだ学生たちは、その専門性を生かしながら、質の高い教育に貢献できるものと期待されています。



出前授業の様子

## ゴミ分別とゴミ箱の工夫

人間学部児童教育学科山本ゼミの学生たちは、「ゴミ箱を工夫して、ゴミの分別率を改善しよう」をテーマに、正しいゴミの捨て方についての啓発活動を行いました。本学のゴミ箱使用状況についての実態調査から、正しい分別をしていたのは、わずかに54%でした。そこで、ゴミの正しい分別を促進するために、啓発ポスターの作成とゴミ箱のカラー化に取り組みました。ポスターは学内全箇所のゴミ箱に掲示、ゴミ箱のカラー化は2カ所で行いました。その結果、ゴミ箱のカラー化による効果は、+1.5ポイント(60.0%~61.5%)、ポスターの掲示による効果は、+5.0ポイント(58.5%~63.5%)、ゴミ箱のカラー化とポスターの掲示による効果は、+11.0ポイント(48.5%~59.5%)となりました。これらの活動を通して学生たちはゴミ箱のカラー化やポスターの掲示による啓発が有効であると改めて考えました。私たち一人ひとりが環境に配慮した生活や責任ある行動がとれるよう、環境に対する意識や学びを深める必要があると強く感じたそうです。



ゴミ箱とゴミ分別

## 絶滅危惧種の保全活動

社会学部社会情報学科藤巻ゼミの学生たちは、2018年7月~9月の身体を動かさなくても汗が噴き出る一番暑い時期、神奈川県愛甲郡愛川町の河川敷で草むしりの作業を行いました。私たちの生活を快適にするために、私たちの知らない「ある種」が地球上から消えています。私たちがとは関係のない話のように聞こえますが、じつは「カワラノギク」の保全活動は身近な神奈川県で行われています。カワラノギクは関東の一部の河原にのみ生息しているキク科の多年草です。定期的にかかる洪水で多くの雑草が流される中、根が強いカワラノギクは生き残ってきました。しかし、上流にできた宮ヶ瀬ダムにより洪水による被害の減少や安定した電力・上水道の確保と引き換えに、いま絶滅の危機に瀕しています。自らの力だけでは生きていけなくなったカワラノギクを守る地元の人たちと触れ合う中で、学生たちは一つひとつの行動には意味があり、社会を変える原動力になっていることを理解したようです。また、その情報を共有していく必要性を強く感じました。



保全活動の様子

## SDGs 啓発プロジェクト

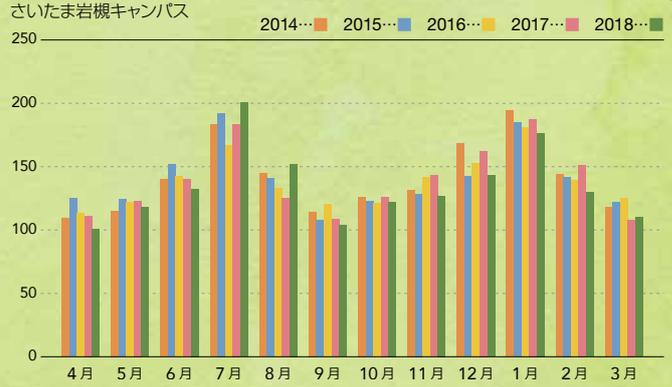
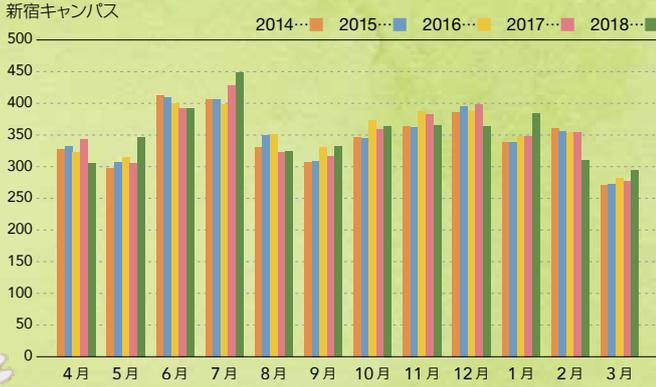
社会学部地域社会学科飛田ゼミの学生たちは、新宿ユネスコ協会青年会員として、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟より青少年ユネスコ活動事業の助成を受け、イベントへの参加やフォーラムの開催などを通じて、地域の方々や交流しながら、SDGsの理解と啓発に努めました。2018年6月にはエコギャラリー新宿にて「新宿エコライフまつり」に出展。カードやパネルを使ったSDGsのワークショップを企画しました。10月には落合第二地域センターにて「SDGsアクションフォーラム~広めよう!エコライフ~」を開催。環境問題を中心にSDGsの17目標から各自関心のあるテーマを選んで発表。さらに学生たちがファシリテーターとなって地域の方々やグループワークを行いました。11月には新宿区立消費生活センター分館にて「SDGsアクションフォーラム~多世代で協働する持続可能な社会づくり~」を開催。さらに掘り下げた発表を通じて、持続可能な社会づくりのために若者ができることやすべきことを提案し、世代を超えた交流と意見交換を行いました。



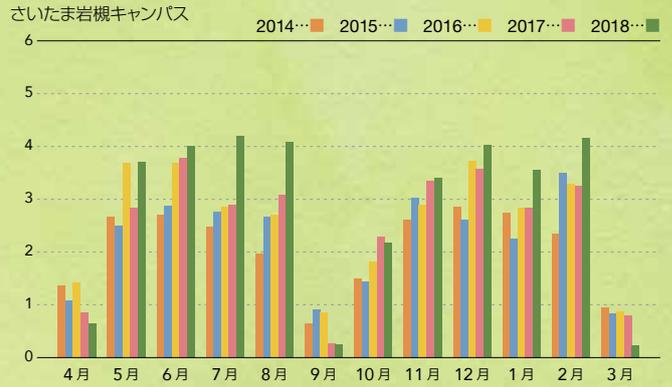
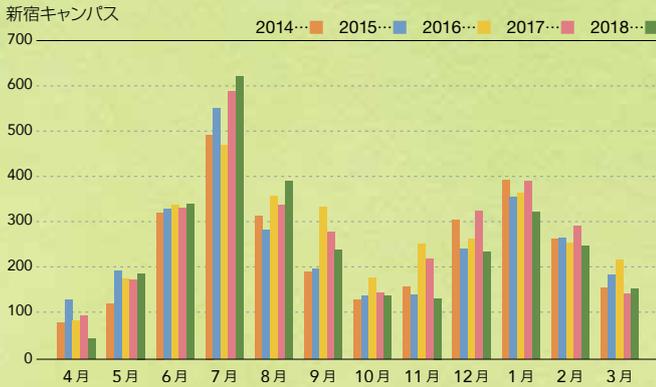
SDGsフォーラム

# 環境負荷データ

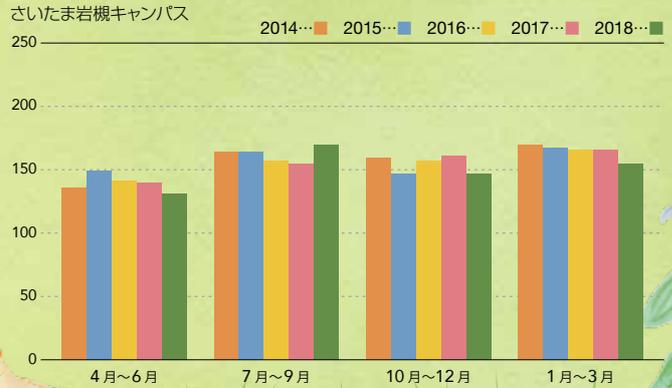
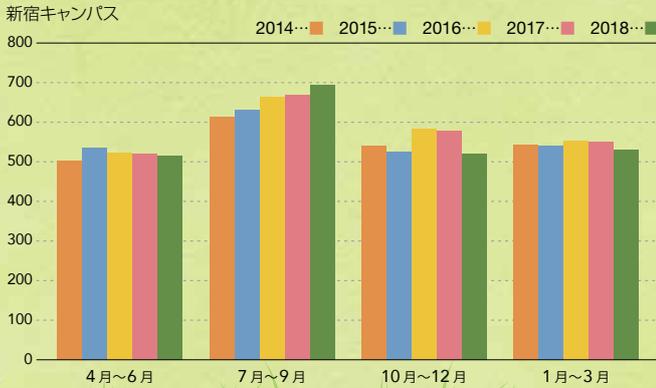
## 電気使用量 (単位:千kwh)



## ガス使用量 (単位:百m³)



## CO2 排出量 (単位:t)



# 目白大学

■新宿キャンパス 東京都新宿区中落合 4-31-1 TEL:03-5996-3117  
 ■さいたま岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222  
<https://www.mejiro.ac.jp>

設置者	学校法人目白学園(尾崎春樹理事長)	
■目白大学	設立年	1994年 目白大学設置
	学生数	5,725名(2019年5月1日現在)
	設置学部・学科	人間学部 心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科 社会学部 社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科 メディア学部 メディア学科(2018年4月開設) 経営学部 経営学科 外国語学部 英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科 保健医療学部 理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科 看護学部 看護学科
	大学院	国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科

■目白大学短期大学部	設立年	1963年 目白学園女子短期大学設置(2000年 目白大学短期大学部に名称変更・改組)
	学生数	377名(2019年5月1日現在)
	設置学科	生活科学科/製菓学科/ビジネス社会学科/歯科衛生学科(2019年4月開設)



新宿キャンパス本館



さいたま岩槻キャンパス1・2号館